

博物館だより

No.36

平成21年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

みやこゆかりの先人展

近代「製麻業」創始の兄

元号「昭和」創案の弟

吉田健作と吉田増蔵展

4月28日(火)～6月7日(日)

当館では4月28日から6月7日まで、みやこゆかりの先人展「吉田健作と吉田増蔵展」を開催します。

吉田健作・吉田増蔵の兄弟は、みやこ町勝山上田の出身です。兄の健作は滋賀県に日本で最初の近代的な製麻工場を創設した人物、弟の増蔵は「昭和」の元号を創案した人物として知られます。

今回の企画展では、これまで未公開の個人所蔵資料の中から、健作・増蔵ゆかりの品々や故郷上田に関する古文書類など約250点を展示します。ぜひご来館下さい。



吉田増蔵の書

■観覧料

常設展の観覧料をご覧ください。

■主な展示資料

- ・書幅 吉田増蔵
- ・書幅 大久保利通
- ・『日本製麻史』草稿
- ・上田村関連絵図
- ・御用日記類(幕末～明治) 他

4月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

4月4日(土) 9時30分～

【古文書講座】

4月11日(土) 10時00分～

【古典かな講座】

4月18日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

4月24日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

4月25日(土) 10時00分～

内務省

内務九等属 吉田健作
事務兼勤申付候吏

明治十年一月十五日

吉田健作あて内務省辞令

内国勸業博覧会事務兼令

2・3月の活動日誌から



▲神事後の斎庭の前で。絶好の「御田祭日和」でした。

2月25日。犀川小学校5年生のみなさんが来館し「モノづくり体験教室」に参加、古代人お気に入りのアクセサリー「勾玉」づくりにチャレンジしました。

3月15日。友の会と共催で「伝統芸能鑑賞会」が行われ、京都平野に春の訪れを告げる神事「英彦山御田祭」を見学しました。厳かな田植神事に豊作を願う人々の想いを垣間見ました。



▲一生懸命作った「MY勾玉」のできばえはどうでしたか？

《古文書解読コーナー》

① 新法

② 〈ヒント〉 司法、〇〇、立法

③ 脱走

④ 〈ヒント〉 逃げ去る

⑤ 芝居

⑥ 〈ヒント〉 芝居などをよおす

⑦ 入り

⑧ 〈ヒント〉 〇〇入り

⑨ 興行

⑩ 興行 (反対向きに見てください)

- ① 鳴物
- ② 脱走
- ③ 興行
- ④ 脱走
- ⑤ 興行
- ⑥ 鳴物
- ⑦ 興行
- ⑧ 興行
- ⑨ 興行
- ⑩ 興行

みやこの歴史発見伝

在野の考古学研究者

犬塚行蔵

犬塚行蔵

犬塚行蔵（二八八五—一九三七）は、現みやこ町勝山長川の出身で、大正から昭和初期の考古学研究に貢献した在野の考古学者です。父・慎一郎は現行橋市上稗田の「水哉園」（行上仏山の開いた私塾）などで学んだ後、鉄道技師として博多周辺の鉄道敷設に尽力した人物でした。

行蔵は諫山尋常小学校（現在の諫山小学校）在学中から、学校付近にある古墳などに興味を持ち、旧制豊津中学校（現育徳館高等学校）四年生のときには馬ヶ岳（みやま）町・行橋市境に所在する山。山頂部は中世の山城近くで銅剣一本、銅鏃二個を採集したと伝えられています。

その後上京し（海軍入隊など）、大正三年（一九一四）に井波みつと結婚。この頃から毎日のよう



▲犬塚行蔵



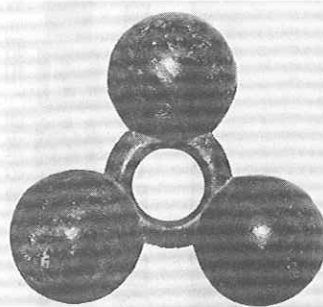
▲父慎一郎と行蔵

間自宅に、「飛騨上代文化研究所」の看板を掲げ、二〇以上の論文を執筆し、飛騨地方初の学術的な発掘調査の指導にもあたりました。

また高山の三福寺町では町内の人と共に古墳の発掘調査を行い、史跡の重要性を説明するなど、発掘調査だけでなく、普及・啓発活動にも取り組んでいます。その意思は現在も活動している「三福寺町史跡保存会」に受け継がれています。

犬塚行蔵収集品

行蔵の収集遺物二二一点（石器二〇四点、土器三点、銅製品四点）は昭和三五年に岐阜県の重要有形文化財指定を受けています。その内容は、旧石器時代の尖頭器、縄文時代の石匙・石鏃・釣手土器、弥生時代の石包丁・古墳時代の三環鈴（馬具に用いられたと考えられる鈴）などです。また、この内六八点の資料には出土地など詳細な情報が添えられており、



▲三環鈴

大正一五年（一九二六）、行蔵は現在の岐阜県高山市に転居します。これは妻の実家が近くであったことに加え、親交のあった高山の考古学者・押上森蔵氏の計らいによるものであったようです。

飛騨で行った調査・研究

飛騨地方は、古くから歴史研究の盛んな地域で、江戸時代には二木長嘯（にぎひさのぶ）（収集品は国指定文化財）、明治時代には朝戸篤夢（あさとあつむ）（収集品は岐阜県指定文化財）などによる研究が行われていました。行蔵は高山に六年間居住しますが、その

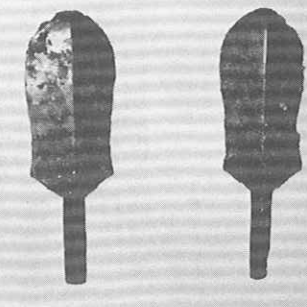


▲三福寺町の横穴墓発掘調査（昭和3年）

現在の考古学の調査・研究方法と同様に出土状況を記録したことが高く評価されています。収集資料の大半は飛騨地方で出土したのですが、中には豊津中学校時代に馬ヶ岳周辺より採集したとされる銅鏃も含まれています。

犬塚行蔵が残したもの

行蔵は飛騨在住わずか6年という短い期間でありながら「犬



▲馬ヶ岳付近で採集されたと伝えられる銅鏃

塚君が来てから石コロを集める人が多くなった」という言葉に象徴されるように、研究者から一般の人々に至るまで「考古学」という学問を普及させ、飛騨の歴史研究の進展に大きな足跡を残しました。

彼は、病気のため昭和七年岐阜市に移りますが、その功績は地元の人々に受け継がれ、飛騨地方における考古学研究の基礎と評価されています。

昭和一二年、行蔵は五二歳の生涯を閉じましたが、その一七回忌昭和二八年に、みつ婦人によって故郷・勝山長川に彼の墓が建てられました。飛騨地方で大きな足跡を残した行蔵ですが、考古学に興味を持つ原点となった、歴史の町「みやこ」で今は安らかに眠っています。

（井上信隆）